



「表紙紹介」

繋がりにから深める絆 地域から愛される 店づくりを目指して

かみくら ゆうや
神倉裕也さん(30)
玉村町 イチゴ15アール



「来てくれた人に笑顔で喜んでもらいたいですね」と語るのは、玉村町南玉でイチゴ栽培を手掛ける神倉裕也さん。妻の朋香さん(26)、兄の和樹さん(32)たちと「やよいひめ」をはじめ様々な品種のイチゴを育てている。

就農した経緯

高校を卒業後、県内電機メーカーの品質管理部門で働いていた神倉さん。働く中で「独立して、自分自身で経営をしたい」と考え始めた。

親戚がイチゴ農家を営んでおり、研修をさせてもらう中で、「自



栽培に対する想い

分が栽培したイチゴをたくさんの人に食べてもらいたい」と感じたのが就農のきっかけ。令和3年に退職し、親戚のイチゴ園で本格的にイチゴ栽培について学び始めた。「当初は天候による被害が多いことに苦勞し、栽培の難しさを痛感した」と振り返る。2年間の修行を経て独立。ハウス5棟を建設し、令和5年12月に「イチゴ屋壽」をオープンした。以前は酸味・甘味・香りのバランスが良く人気品種のやよいひめを多く栽培していたが、今年から新たに「スターナイト」と「みくのか」の栽培も始めた。「複数の品種を栽培し提供することで、食べ比べを楽しんでもらいたい」と神倉さんは話す。

前職で培った知識や経験はイチゴ栽培に活かしている。ハウス内の温度や湿度等は、

スマートフォンを使い、現地に行かなくても確認できるようにすることで、作業の省力化をしている。しかし「現地に行かなければ正確な状態はわからない。実際に現場に足を運ぶことも大切」と綿密な管理を心がける。

肥料の葉面散布は、定期的に行うようにしている。葉から吸収させることにより、生育が良くなるだけでなく、イチゴの糖度が上がり、見た目が良くなるという。また、天気が悪いときは、根からの肥料吸収がしにくいため、食味低下を防ぐ効果がある。

害虫の天敵となる益虫を放飼し、農薬の使用を極力抑えるなど、小さな子どもたちでも安心・安全に食べることが出来るイチゴを育てている。さらに、Instagramを通じてイチゴ栽培に対する想いを発信している。

地域に愛される 店づくりを目指して

神倉さんは、来園してくれる顧客とのつながりを何より大事にしている。「子どもから大人まで誰にでも喜んでもらえるイチゴを作りたい。イチゴを食べておいしいと言っても、出来るのが何よりうれしい」と話す。また、地域の方との関わりを大切にしているため、



販売のほとんどは隣接する直売所で行う。「実際に来園してくれる方と話し、自分たちのことを知ってもらうことで繋がりができる」と語る。需要に応えつつ、どのような付加価値を持たせていけるかを探ることが日々の課題。「来てくれるお客さんが第一。うちのイチゴを食べることで多くの人が笑顔になれる、地域から愛される店づくりを目指していきたい」と意欲をのぞかせる。



ICHIGOYA KOTOBUKI
TAMAHURA, GUNMA

イチゴ屋 壽(ことぶき)

【営業時間】9:30~16:30 木曜定休
【電話】0270-33-9015
【住所】佐波郡玉村町南玉454-1



公式Instagram
ichigoya_kotobuki